

梅の里



学校だより第4号
令和元年7月22日
文責：教頭 草間
TEL 85-2007

貴重な海での体験と「け」「じ」「め」5年臨海学習 (6/25~26)



「け」…干物作りでは、包丁を手にしてアジを切りました。地引き網では重たいロープを力いっぱい引きました。各サービスエリアでの移動ではしっかりと手をあげて横断します。人混みが多いところでは歩いて安全に動きます。「け」**がをしない**を達成しました。

「じ」…名古屋市科学博物館では完全な班行動でした。竜巻体験や雷体験などを楽しむ子どもたち。しかし集合時には全員が揃っていませんでした。海の幸が出てきた豪華な夕食、バランス良かったっぷり食べたバイキング、それら食事の時間を含め、集合時刻に遅れたという姿は一度も見ませんでした。時間を守ろうと意識するあまり忘れ物をしてしまう場面があったにしても、「じ」**かんを守る**を達成しました。



「め」…あまりの嬉しさにバスの中でガイドさんの話がしっかり聞けなかったり、えびせんの里で買い物に夢中になって他のお客さんの邪魔になってしまったり、バスの中のレクや学習にみんなで協力できなかったり…ということを先生たちに指摘されました。「これでは自分たちが目指す臨海学習ではない!」と自覚した子どもたちは、その後、より意識して行動していました。ホテルの方への挨拶、水族館でのマナー、MRJ ミュージアムでの話を聞く態度、あいち航空ミュージアムでの班行動、どれも「め」**いわくをかけない**が意識されていました。

この学年目標「け」「じ」「め」を、臨海学習だけで終わらせてしまってはもったいない!。ぜひ来年度の最高学年として、頑張った3つの目標をこれからも意識してほしいと思います。たった2日間でしたが、大きく成長した5年生でした。(一部、写真を修整してあります)



「朝、街頭に立って、いつものように安全指導をやっていたんです。そしたら女の子2人があいさつしてくれて、『これどうぞ』って四つ葉のクローバをくれたんです。私、とっても嬉しくなって、つい学校に電話してしまいました」…こんなお電話をいただきました。見守り隊の方々、いつも本当にありがとうございます。

梅っ子育て隊の方々と一緒に大掃除(7/16)



1学期も、梅っ子育て隊の方々に大変お世話になりました。

7月16日には学期末大掃除の時間に合わせて、普段できない作業を一緒にやっただきました。高い場所の窓ふき、ピロティのクモの巣取り、子どもたちの下駄箱、調理室のレンジまわり等々。昨年までは、子どもたちが下校した後に行っていた活動でしたが、「子どもたちの掃除の時間に合わせて一緒にできたら」というご希望があって実現しました。「まだまだやりたいない」「子どもたちと一緒に掃除ができて良かった」というありがたい感想もいただきました。この他にも五平餅作り(のひばりの会)、参観日の時の駐車場整理(お



やじの会)、児童預かりの際の見守り、クラブ活動、地域探検など、たくさんのご協力をいただいた1学期でした。本当にありがとうございました。



<夏休み中の緊急連絡先>

緊急性がある大けがや事故等の場合、次のように連絡をお願いします。

○職員が学校にいる日(8月8~18日を除く月~金曜日)は学校TEL **85-2007**

○8/8~8/18は**教育委員会 85-2314**

○夜間または休日は、学校用携帯電話(教頭が所持)080-7693-3032

夏休みのプール開放の中止連絡について

中止の連絡をできるだけ早くしてほしいという要望がありますが、管理規定により早い時間帯での可否決定ができません。中止の場合は**7:50頃**にメールで送信しますので、ご理解をお願いします。

北割集落センター付近の道路工事の予定が早まってお盆前から始まります。子どもたちの通路は確保していただけるそうですが、特にプールに来るときには注意しましょう。

お知らせ

○今年度、プール参観という形ではなく、指定された日にちの中でご自由に学習の様子を見ていただくという形に変更させていただきます。プール開きから始まった水泳学習が、天候不順の影響でしっかりとできていません。指導しなければならないことが各学年残っておりますので、特別なことはせず普段通りの授業を行います。

- ・各学年でお知らせする日の中で都合の良い日に見ていただいて構いません。
- ・天候により突然中止になることもありますが、学校からは中止かどうかの連絡はしません。お問い合わせもご遠慮ください。
- ・水泳学習に関して、カメラやビデオでの撮影はしないでください。

○3～6年生に木工用ボンド・説明書を配りました。木工用ボンドを使った工作にチャレンジしたい人はぜひどうぞ。説明書にあるようにご家庭で応募していただいても構いませんが、学校から応募することも可能です。応募用紙（各自ダウンロード）に記入し、夏休み明けに作品と用紙を学校に持って来て下さい。

1 学期末 終業式 学校長の話（抜粋）

今日で、70日間の1学期が終了します。

4月5日の始業式で皆さんにお願いしたことは、宮小家族として、何人もなれる「一流」を目指してほしいということでした。そうすれば、一層「自分を好きになり、他人を好きになり、宮田を好きになる」ということでした。



職員室前の壁には、事務の浦野先生と小林先生が、皆さんの活躍が載った新聞記事を貼ってくれています。4ヵ月で、そこがいっぱいになっています。児童会活動や運動会での活躍、健康サポーターや緑のカーテンづくりで地域のために役立っている姿、学校外では、市町村対抗駅伝や少林寺拳法の皆さんの健闘、個人では、12万点以上の応募から15人の特別賞に選ばれて中国へ行くことになっている習字の5年生加藤さんなど。これらは、皆さんが一流を目指して頑張った証です。新聞には載らないけれど、頑張ったことは何倍も何十倍もあるはずです。一流を目指して頑張った70日間だったと思います。宮小家族として誇らしく思います。

そんな新聞の記事のなかに、皆さんの活躍ではないのですが、宮田小学校に関して、長野県中で、いや日本中で注目されたものの記事があります。なんだかわかりますか。これです。ライチョウです。

ライチョウは長野県の県の鳥、県鳥に指定されていますが、皆さんがよく知っているスズメやカラスのように身近にいる鳥ではなく、高い山にしかいません。しかも、長野県とその周りの県の、ごく限られた所にしかいない貴重な鳥です。だから、この中で、実際に山でライチョウを見たという人はいないのではないのでしょうか。誰か見た人はいますか？ 私も見ただことありません。

生息数はわずか3,000羽程度だそうです。ライチョウがこれからもずっと生き延びていくためには、少なくとも1,000羽以上の数が必要だということで、これ以上減ってしまうと、ライチョウそのものが見られなくなってしまうかもしれません。つい先日、地球温暖化の影響で、今世紀末には北アルプスのライチョウが全滅してしまうという報道もありました。まさに絶滅の危機が迫っているといえます。

毛の色は、夏は茶色っぽくて、冬はこの剥製のように真っ白になります。オスは目の上が赤くなるようなので、この剥製はオスだとわかります。

さっき、高い山にしかいないと言いましたが、宮田にも高い山がありますね。目の前にそびえている西駒ヶ岳です。実は、西駒にも以前、ライチョウがいたそうですが、昭和40年代、今から50年ほど前に、1羽もいなくなってしまうました。

ところが、ちょうど1年前、西駒で50年ぶりにメスのライチョウが発見されました。これをきっかけに、

貴重なライチョウを西駒に復活させようという計画が動き出しました。でも問題があったのです。同じライチョウでも、二つのグループがあって、一つは北アルプスに住むグループ、もう一つは南アルプスに住むグループです。50年ぶりに発見されたライチョウは北アルプスから来たことがわかっていましたが、以前西駒にいたライチョウがどちらのグループなのかわからなかったのです。ただ復活させればいいというのではなく、50年前と同じグループを復活させなければ意味がないということなのです。

よく知られているのはメダカの例です。今は貴重となってしまったメダカも、詳しく調べると地域によって違いがあり、持ち出しを厳しくして、違う地域のメダカが混ざらないようにしています。

西駒のライチョウが絶滅してしまった今、どちらのグループか調べようがなかったのですが、国の環境省という役所が、西駒に近いところにライチョウの剥製がないか探し始めました。すると、なんと宮田小学校にあったのです。

このライチョウの剥製にはラベルが貼ってあって、「産地 西駒岳」と書かれています。西駒ヶ岳のことです。いつ捕えられたかは書かれていないのですが、他の剥製にライチョウと同様のラベルが貼られ、「大正10年」とか「大正11年11月」と書かれています。今から100年ほど前になります。おそらく、このライチョウも同じ時期に捕獲されたものと思います。

もともと数が少ない鳥なので、剥製自体も珍しいのですが、こうして、目の前の剥製は、絶滅する前の西駒にいたライチョウだとわかりました。全国で初めて確認されたということで、最初に言ったように、日本中で注目されることになりました。その後、駒ヶ根市にも1体あることがわかりましたが、いずれにしても、全国で2体しかない貴重な剥製です。私がこの学校に来て初めに目についたのがこのライチョウの剥製でした。その時は、まさかこのように日本中で話題になるとは思ってもいませんでした。

そして、この剥製を詳しく調べると、北アルプスのグループに由来していることがわかり、復活作戦に一層はずみがつきました。6月には、北アルプスに属する乗鞍岳のライチョウの卵6個を西駒に移し、そのうち5個がヒナにかえりました。ところが、寒さや天敵にやられてしまったのか、1羽も姿が見えなくなってしまいました。今年の復活作戦は失敗に終わってしまいましたが、来年につながる貴重なデータとなりました。いつの日か、西駒にライチョウが復活してくれることと思います。

剥製に関して違う点で話をします。宮田小学校は大正11年3月に火災に遭っています。すべてが燃えてしまいました。そこで、宮田村に住む方や、宮田村出身で県外にお住まいの方から多くの寄付金をいただきました。そのお金を使わせていただいて購入したのがこの剥製になります。剥製には、宮田小学校の復興を願う多くの方の熱い想いが込められているのです。貴重ということだけでなく、村民の皆さんの熱い想いも感じてほしいと思います。

さて、明日から夏休みになります。「虫屋」という言葉があります。魚屋は魚を売っている店、花屋は花を売っている店のことですが、虫屋は虫を売っている店のことではありません。ムシ、昆虫のことが好きで、好きでたまらなくて、ムシの一生を観察したり、採集して標本にしたり、飼ってみたりしている人のことを言います。虫屋のおかげで新種が発見されたり、どのムシがいなくなっているとか、逆にどのムシが増えているとか分かったりします。虫屋は環境のことを考えるための問題を示してくれています。

このライチョウの剥製もそうです。貴重な鳥ですが100年前に剥製にしてくれたおかげで、西駒のライチョウ復活への大きな足掛かりとなりました。

夏休み、昆虫採集や押し花をつくったりする人もいるでしょう。今すぐには役に立たないかもしれませんが、何年、何十年先には、皆さんの研究が役に立つかもしれません。理科的なことに限りません、自信を持って何かに打ち込む夏休みにしましょう。

それができれば、一層「自分を好きになり、他人を好きになり、宮田を好きになる」はずです。

「夏休み 宿題、研究 一直線」

いい休みにしましょう。そして、8月20日には元気に登校しましょう。